

豊田郡大崎上島町所在

葛 城 跡

—遺跡見学会資料—



△ 葛城跡遠景（東から）

日 時：平成 25 年 7 月 27 日（土）13：30～

主 催：公益財団法人広島県教育事業団
大崎上島町教育委員会

1 はじめに

公益財団法人広島県教育事業団（埋蔵文化財調査室）では、主要地方道大崎上島循環線沖浦工区道路改良工事に伴って葛城跡の発掘調査を行っています。

葛城跡は、豊田郡大崎上島町沖浦に所在します。大崎上島町は、平成 15 年 4 月に、旧大崎町・旧東野町・旧木江町の 3 町が合併して誕生しました。沖浦は、大崎上島の南岸の旧木江町に位置しています。

大崎上島は、竹原市の南の沖合にあり、南には大崎下島、東及び南には大三島・岡村島などがあります。周囲には 20 以上の小島が点在しています。大崎上島は、北東－南西に長い島で、島の中央部にある神峰山（452.6m）を中心に四方に山地が延びています。

大崎上島町には、62 か所の遺跡が確認されています。縄文・弥生時代の遺跡は、大崎上島東部や生野島などで確認されています。古墳時代の遺跡は、古墳や製塩土器などの出土する包含地が周囲の小島を含め町内北側に点在しています。中世には、大崎上島は大崎庄と呼ばれていました。中世の遺跡は、城跡 12 か所・墳墓 1 か所の合計 13 か所確認されています。城跡は、旧東野町では 5 か所、旧大崎町では 5 か所、旧木江町では 2 か所があります。旧木江町の城跡は、向林城跡（明石）と今回調査した葛城跡（沖浦）です。

2 調査の概要

葛城跡は、北から南方向に延びて海岸に岬状に突き出た丘陵の先端に立地しています。尾根頂部に平坦面が広がる単郭の城跡で、頂部平坦面の標高は約 26m です。その北側は堀切状に落ち込んでおり、現在は舗装された峠の小道になっています。この北側の堀切状の峠の小道から南側の尾根の裾までを城跡の範囲とすると、城跡の大きさは、南北方向が約 85m、東西方向が約 60m です。頂部平坦面は、南北方向が約 50m、東西方向が約 20m の大きさで、南北方向に細長い長方形状をしています。頂部平坦面の南辺及び東辺を中心に石垣が設けられており、頂部平坦面の南側及び東側に帯郭状の平坦面が廻っています。

今回の調査区は、本城跡の南東側を対象にしています。調査対象面積は 1,830㎡です。

頂部平坦面の調査区の範囲は、南北方向が約 30m、東西方向が約 20m の南北方向に長い三角形状をしています。頂部平坦面で検出した遺構は、土器だまりと集石のある土坑（SX1）、段状の遺構（SX2）、円形状の土坑（SX3）のほか、ピット群などがあります。

頂部平坦面の周囲を断続的に廻る石垣は、調査区内の総延長が約 60m です。小さな角礫を高さ 0.1～1.5m 程度積んでいます。出土遺物から石垣の造成は近世以降とみられます。

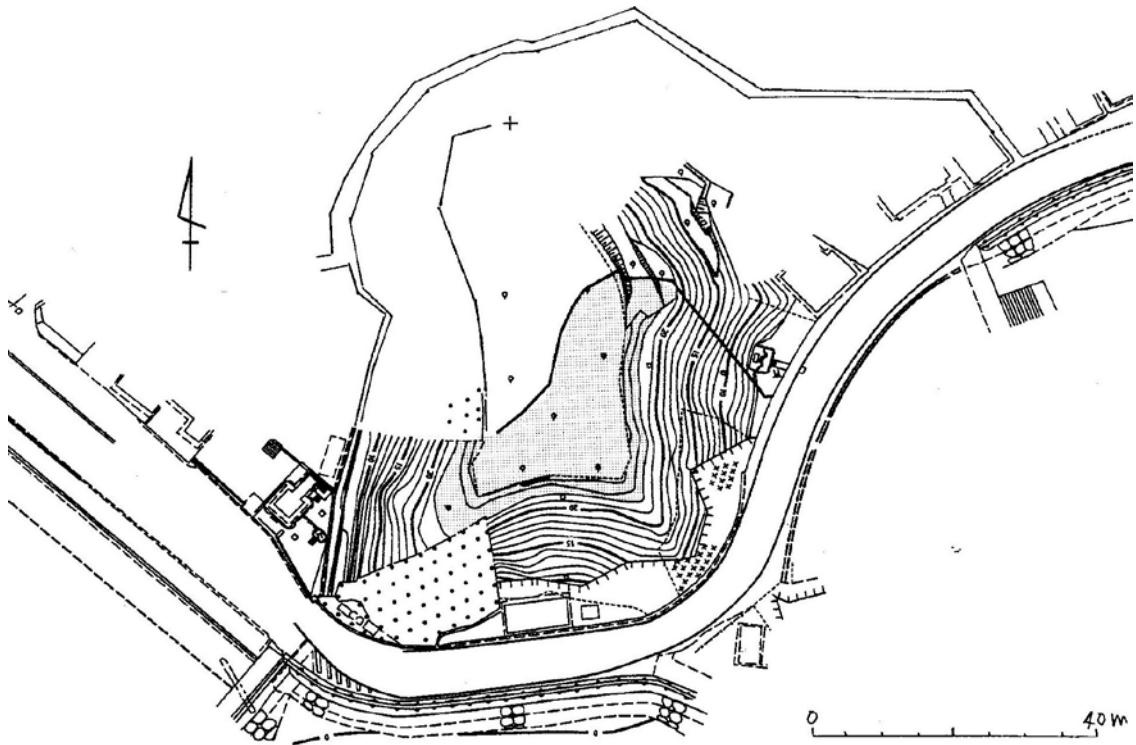
頂部平坦面の周囲を廻る帯郭状平坦面は、幅が概ね 0.5～3m で、東辺の北側で途切れています。調査区の東北端・南東端及び南西端ではさらに幅広くなっており、南東端と南西端は尾根状にそれぞれの方向に延びています。

出土遺物は、土師質土器（皿・鍋）、須恵質土器（播鉢）、備前焼（甕）、亀山焼（甕）、青磁、基石、土錘などがあり、主に SX1・2 から出土しました。これらの出土遺物の時期は、主に 15～16 世紀と考えられます。



△ 葛城跡位置図 (約 1:70,000, ★は葛城跡, ▲は向林城跡)

(この地図は国土交通省国土地理院発行の 1:50,000 の地形図 (三津) を縮小して使用しています。)



△ 葛城跡周辺地形図 (約 1:1,000)

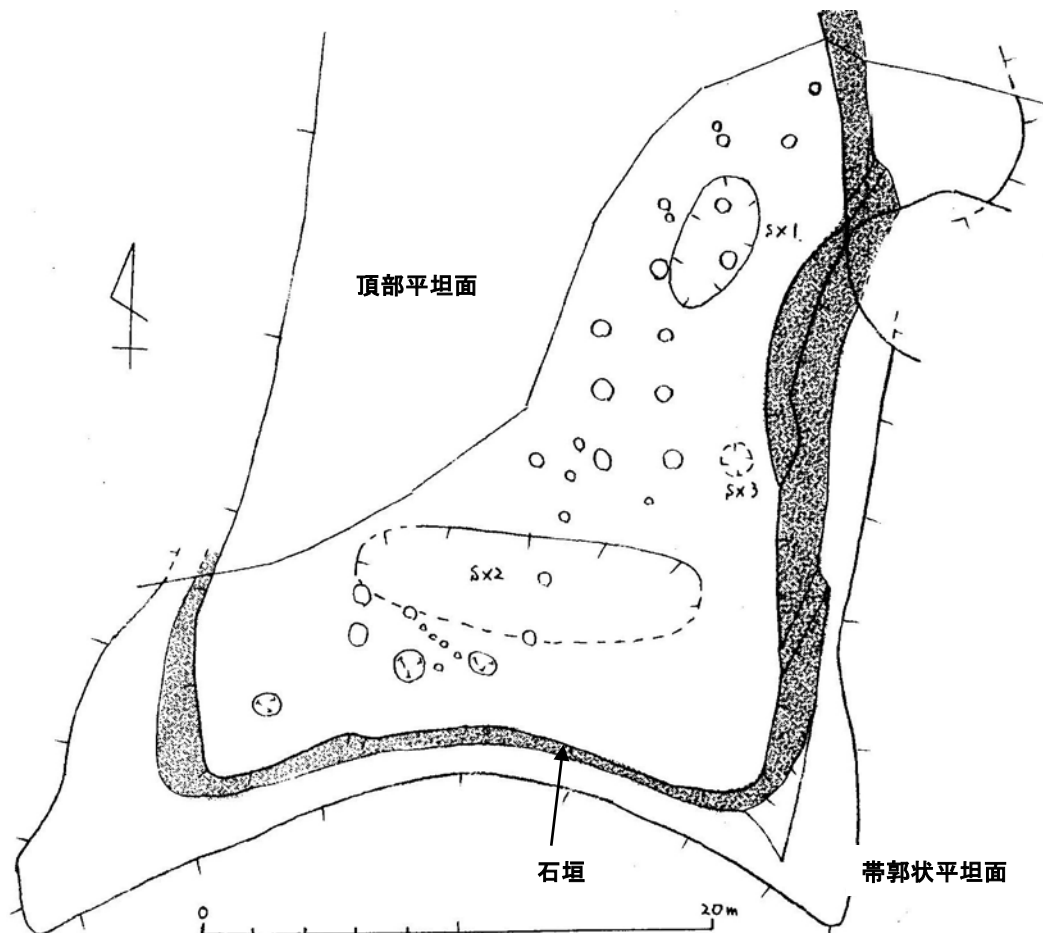
(アミメ部分が調査区)

3 おわりに

今回の調査で、海岸に面する中世の城跡の様子が確認されました。遺構は、頂部平坦面で土器だまりや集石のある土坑や段状の遺構などを検出したほか、頂部平坦面を廻る石垣や帯郭状平坦面を確認しました。遺物は、土師質土器（皿・鍋）、須恵質土器（播鉢）、備前焼？（甕）、亀山焼（甕）、青磁などが出土しました。本城跡の時期は、出土遺物から15～16世紀代と考えられます。本城跡の性格は明確ではありませんが、海岸に面した尾根上に立地し、周辺海域の見通しがよいことから、見張り所的な性格も考えられます。

大崎上島町は中世の時期に大崎庄という荘園でしたが、室町時代には沼田小早川氏が大崎東庄（主に旧東野町域）・中庄（主に旧大崎町中野地域）を、竹原小早川氏が大崎西庄（主に旧大崎町原田大串地域・旧木江町明石・沖浦地域）を実質的に支配したようです。本城跡は大崎西庄の範囲に入ります。大崎西庄地頭土倉冬平（沼田小早川氏の庶家）の居城という言い伝えがありますが明確ではありません。また、その前後の時期には大崎西庄は竹原小早川氏の勢力下であったようです。

本城跡の城主は明確ではありませんが、本城跡のような海岸に面した城跡の調査例は少なく、中世の瀬戸内海地域の歴史を研究する上で貴重な資料となるものです。



△ 葛城跡遺構配置略図（約1:300）